

学校名	上尾市立平方小学校
所在地	上尾市平方1346番地1
電話	048-725-2070

1 本校の概要

本校は明治6年に馬蹄寺上尾市平方を仮校舎として開校し、以来148年の歴史と伝統のある学校である。令和元年度よりコミュニティ・スクールを導入し、学校と地域の連携、協働の下、日々教育活動を行っている。元気なあいさつが常に響き渡る学校を目指している。

2 本校の実践

(1) 実践の視点

- ・読書に親しむ態度や読書週間に係る取組
- ・家庭や地域との連携

(2) 実践の概要

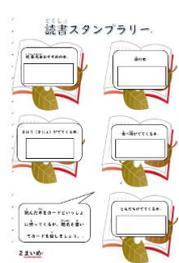
ア 毎朝10分間の朝読書（月～金）

継続的に読書に親しむことを通して語彙力を高め、人の気持ちを理解できる人になってもらいたいという考えから、毎朝10分間の朝読書に取り組んでいる。はじめは、どの本を読もうか選ぶのに時間がかかっていた児童も、今では開始時刻には席に着き、当たり前のように本を手にして静かに読書に取り組む姿が見られるようになった。1冊の本を全て読み切る経験により、達成感を味わい、次はどんな本を読もうか楽しみにする児童も現れてきた。



イ 月ごとの読書スタンプラリーの実施

毎月、様々なテーマの本を読むことができるよう、図書室で「読書スタンプラリー」を配布している。季節にあった本や動物の本、自然の本など、さまざまなテーマを設定し、普段は手に取らないような本に親しむこと



や、本を選ぶ時の手立てとして活用を図っている。10月から11月にかけては読書月間として、多くの本に親しめるよう3段階のスタンプラリーを用意した。令和2年度の読書月間は毎日図書室がにぎわっており、多くの児童が楽しみながら読書に親しむことができた。

ウ 保護者による図書ボランティアの活動

令和2年度は、新型コロナウイルスの影響もあり、読み聞かせのボランティアを募集することができなかった。しかし、多くの児童が本に親しむようになってい中で、少しでもできることはないかと考え、読書月間にたくさん本を読んだ児童への景品づくりをお願いすることにした。2週間の期間の中で、毎日のように保護者が図書室に来て「子供たちのために」と、素敵なしおりを作ってくれた。素敵なしおりがあることが児童の中で少しずつ広まり、スタンプラリーに熱が入る児童が増えた。

エ 教師による月に一度の読み聞かせ

児童は当日まで、だれが来て、何の本が読まれるのかは知らされない。



「今日はどんな本を読んでもくれるのかな」という

期待感から、本への関心の高まりや次に読む本を選ぶきっかけとなってほしいと考えている。

教師も児童の実態や季節などをふまえ、どんな本を読んだらいいかを考え、読み聞かせに取り組んでいる。はじめは図書支援員からのおすすめの本の一覧からの選書が多かったが、最近は自宅から持ってきたり、図書室に行ったりして本を決めている教師も多い。そのような姿を見て、児童も自分で本を選んで読んでみようとしているのではないかと思う。

3 成果と今後の課題

(1) 成果

ア 以前に比べて、少しずつ図書室への来室が増えている。

イ 読書に進んで取り組み、本を読むのが楽しいと感じている児童が増えている。

(2) 課題

ア 児童の発達段階によって取組への意欲が異なるため、低学年から高学年までが楽しく本に親しめる取組を更に考えていく。

イ 足を運びたい図書室環境をさまざまな視点（本の入れかえ、掲示物、イベント等）から整備していく。